金田先生への質問

■プリントの右側のルビなし漢字の前後に空白（余裕）があるのは、何か意図があるのでしょうか。

N4～N5レベルのテキストの多くが、文節ごとに空白が設けられ、学習者にとって読みやすいようになっています。今回の学習者は、N3の学習に入ったばかりでしたので、慣れないルビなし文がより読みやすいよう、空白を設けました。N３の学習に慣れてきたら、文節で区切らず一般的な書き方に変更しています。また、短い文ですと、ルビありの方を耳で聞いてコピーできてしまうので、漢字部分をしっかり認識できるようにという意図もあります。

■書く練習の時には漢字の書き順練習などはしますか。

スピードリーディング活動に付随する書き練習の際は、書き順については一切触れません。あくまでも「早く書き写す」ということだけに焦点を当てています。頭と腕の運動のイメージです。書き写す際に、頭の中で文を反復しているので、そちらの意義に重点を置いています。

■この活動は読みと意味の定着に特化していますが、漢字の書きの勉強はどのようにしていますか。

漢字の書きの学習の際には、①対象漢字の空書き→②漢字の意味の説明→③漢字一字ではなく、その漢字が使われている（いそうな）知っている語彙を学生に出してもらい、その中からいくつかピックアップし、ノートに2,3回ずつ書いてみる。書き順については、このときしか説明しません。②～③がうまくつながると、想像で色々な言葉が出てきたり、時には新しい言葉が誕生し、活発な活動となります。

■各ペアで練習するとき、学生が奇数の場合は３人組にしますか。それとも、教師が入りますか。３人組にする場合はどのように役割分担させていますか。

学生が奇数の場合は、教師が入ります。クラスの状況によっては、練習は個人でさせて、タイム計測の時のみ、教師が入ったりもします。

■意味の確認をされるとありましたが、漢字語彙の意味の確認と文の意味の説明とあるかと思いますが、それぞれどのようにされているか教えて頂ければと思いました。漢字語彙の意味の確認方法に特に興味があります。

意味の確認の際は、必ず文の意味から確認します。文法・読解・聴解の学習でも、文全体のイメージ掴みが大切だと思っているからです。その後、必要そうなときだけ、語彙の意味確認をしていきます。語彙の意味は、語彙レベルにもよりますが、名詞等の場合は、レアリアか写真や動画を見せて具体的なイメージをもってもらいます。抽象語の場合は、「なんとなく」その語のイメージが掴めるまで、いくつも例文や使用場面の例を出して説明します（事前準備が一番大切な部分だと感じています）。なんとなくイメージがつかめたら、実際に自分で例文を作ってもらいます。最後に、携帯辞書を使い、母国語で調べさせ、確実に意味を確認させます。このとき、母国語の訳が間違っていることもあるので、事前の説明と母国語で読んだ解説が一致しているか口頭で確認します。授業内で、しっくりきていないなという語彙は、翌週のスピードリーディングの文に入れ込むようにしています。

■書かせる練習のところ聞き逃しました。もう少し詳しく教えていただけますか。

書かせる練習は、文字数にもよりますが「３分」を目安に時間を計測し、時間内に書く練習をします。書き終わった人は、文頭に戻り、時間内はずっと書き続けます。このとき、未習の漢字も漢字で書いてみます。スピードリーディングに加え、ここでも進出漢字（語彙）を頭の中でリピートしているので、自然と繰り返し学習になっています。この活動では、書き順指導はしません。早く書くことにフォーカスします。

藤田への質問

■漢字の読みの学習は紹介されていましたが、「書く」指導はどのようにされているのでしょうか。

■留学生に対して、読み方に重点をおき、漢字変換ができる程度でいいのか、書き順などにも力をいれるのかどうか。

「書く」ことについては、いろいろな考え方があります。私のクラスでの考え方は、かなり特殊だと思うので、あまり参考にはならないかもしれませんが、『考える漢字・語彙超級編』での書字の扱いについて話をさせていただきます。

クラスができた１９９８年当時、私にクラスを任せてくださった方といろいろ話をしました。学習者のニーズを考えると、一斉授業で書字を勉強することには無駄が多いのではないか。中国人やパソコンで入力だけできれば良いと考える学習者には、書字の指導はいらないもの、必要の無いものである可能性が高いだろうと。そこで、私のクラス（一番上のレベルのクラス）では書字は教えなくてもいいという形で教材を作成することになりました。

と言っても、書字の勉強がしたい学習者もいるはずです。そのため、『超級編』では各課に「書く練習がしたいあなたのために」というページを作り、課末の「おまけ」に入れました。これは、書字の勉強をする必要の無い学生はしなくて済むように、勉強したい学生は勉強できるようにするためです。

私は書字のために授業時間は使いません。「書く練習がしたいあなたのために」は、授業時間外に自律学習の形で使うこととし、学習者が使えるようサポートをしています。これは、「読み」や「意味」（「覚えましょう」）でのやり方と全く同じです。

今回は「覚えましょう」でのやり方について詳しくは話しませんでした。３月２６日のABK日本語教育勉強会では、やり方についてお話ししますし、書字についても話します。

■同じ漢字で始まる語をまとめて勉強しようとすると、類義語、類音語を初出で同時に勉強することになり、かえってまちがいが増えませんか。（文字の意味をとらえられるようになるメリットもあるとは思いますが。）

学習者のレベルによっては、まさにおっしゃるとおりだと思います。既習の知識がなければ、あるいは少なければ、そのやり方はお勧めしません。

私のクラスの学生たちは、既にたくさんの知識を頭の中に持っている状態でした。ですから、なんらかのまとまり、つながりでその既習の知識を整理することが役に立つと考えました。また、そこからさらに新しい語彙を増やしていけば、合理的で記憶に残りやすいだろうと考えました。

■授業で取り上げる漢字や漢字語を使用した実例を漫画から取り出していらっしゃいましたが、どのようにその語を探し出していらっしゃるのですか。（検索の仕方）

漫画については、会の中でもお話しした通り、愛読書であった『エロイカより愛をこめて』を片っ端から読んで、付箋を貼りました。

■生教材を必ず授業に取り入れているとのことでしたが、どのようにされておられるか紹介して頂けませんか？

『超級編』には全課に生教材を入れ、それを課のタイトルにしています。

藤田の「やってみよう！　生教材」の使い方については、このホームページ内のQ＆Aをご覧ください。